



2026 (令和8年) 年8月20日 (木) 発行

(発行所) 一般社団法人応用生態工学会事務局 〒102-0083 東京都千代田区麹町4-7-5 麹町ロイヤルビル405号室
TEL: 03-5216-8401 FAX: 03-5216-8520 E-mail: eces-manager@ecesj.com HP: <https://www.ecesj.com/>

(発行者) 一般社団法人応用生態工学会 (編集責任者: 専務理事 光成政和 事務局長 齊藤泉)

1	はじめに	1
2	第4回総会のご案内	1
3	応用生態工学会第29回東京大会の開催案内	1
4	廣瀬賞等受賞者の審査結果決定	8
5	理事会報告	10
6	行事開催報告	13
7	2025年度行事経過	14
8	2026年度行事経過と今後の予定	15
9	事務局より	15

1 はじめに

今号では、第4回総会のご案内、本年9月に開催を予定している応用生態工学会第29回東京大会の開催案内、第3回廣瀬賞等受賞者の審査結果決定、理事会報告、行事開催報告、行事予定・報告などをお伝えします。

「9. 事務局より」に記していますが、会員の皆様に向けて、会員管理サービスシステムの活用をお願いします。当該システムの「マイページ」にある、「会員情報を変更する」のページの最下段に、「総会招集の通知および総会関係書類の電磁的方法による送付」の選択項目があります。電磁的方法（インターネット）による総会開催通知等の受取りの許諾をお願いします。皆様のご協力が、事務局業務と経費の低減に大きく寄与します。未選択の正会員におかれましては、是非ご協力をお願いします。

2 第4回総会のご案内

日時: 令和8年9月26日(土) 午前9時30分～10時30分

場所: 東京大学 弥生キャンパス 弥生講堂 (所在地: 〒113-8657 東京都文京区弥生1-1-1)

目的事項等詳細につきましては、追ってメール・ホームページにてご案内申し上げます。

正会員の皆様におかれましては、ご出席よろしく願いいたします。

3 応用生態工学会第29回東京大会の開催案内

応用生態工学会第29回東京大会2026は、下記のとおり開催されます。応用生態工学会HPの大会ウェブサイトの申込サイトより参加を受け付けておりますので、奮ってお申し込みください。

当日は、世代を問わない闊達な意見交換の場とするため、ぜひ軽装でお越しください。また、暑い日となることが想定されますので、涼しい服装で快適にご参加ください。

【概要】

■開催日

2026 年 9 月 24 日(木)~2026 年 9 月 27 日(日)

■日程

9 月 24 日：自由集会，ポスターコアタイム，各種委員会

9 月 25 日：口頭発表，自由集会，懇親会，キャリアパス企画，各種委員会

9 月 26 日：総会，役員会，表彰，公開シンポジウム

9 月 27 日：エクスカーショ

■会場

東京大学 弥生キャンパス 弥生講堂・一条ホール，農学部 1 号館・2 号館
(〒113-8657 東京都文京区弥生 1-1-1)

■アクセス

● 地下鉄

- ・東京メトロ 東大前駅(南北線) 徒歩 1 分
- ・東京メトロ 根津駅(千代田線) 徒歩 8 分

● 都バス

- ・御茶ノ水駅(JR 中央線、総武線)より
茶 51 駒込駅南口又は東 43 荒川土手操車所前行
東大(農学部前バス停)下車徒歩 1 分



■大会参加費（うち消費税 10%含む）

	～ 8/31(月)	9/1(火) ～ 9/23(水)	9/24(木) ～ 9/26(土)
会員（正会員・賛助会員）	10,000 円	15,000 円	20,000 円
非会員	13,000 円	18,000 円	23,000 円
学生（学生会員・非会員）	5,000 円	6,000 円	7,000 円
名誉会員	無料	無料	無料

■大会ウェブサイト

<https://pub.conf.it.atlas.jp/ja/event/eces2026>

■参加申込サイト

https://pub.conf.it.atlas.jp/ja/event/eces2026/content/registration_jap

【研究発表，自由集会】（対面形式で実施）

■第 1 日目 9 月 24 日（木）

研究発表の第 1 日目はポスター発表(112 件),自由集会(5 件),企業展示が実施されます。詳細なプログラム,要旨は下記ページをご覧ください。

5 件の自由集会のタイトルは以下のとおりです。興味深いテーマが目白押しです。

- ・ 今後の河川水辺の国勢調査に関わる技術とその活用
- ・ 中小河川における川の定量的環境目標の設定と達成に向けて
～応用生態工学会札幌の取組み～
- ・ 河川・ダムに関するデータベースについての意見交換会
- ・ ネイチャーポジティブ経済社会への変革に向けた応用生態工学分野の可能性
- ・ 川がつなぐ自然と地域—河川を基軸とした生態系ネットワーク形成の意義

■第 2 日目 9 月 25 日（金）

研究発表の第 2 日目は口頭発表（57 件）,自由集会（3 件）, キャリアパス企画・ランチタイム座談会,企業展示が実施されます。詳細なプログラム,要旨は下記ページをご覧ください。

3 件の自由集会のタイトルは以下のとおりです。

- ・ 測る・守る・活かす — ネイチャーポジティブ時代の地域マネジメントを考える —
- ・ その魚道、小さな魚はのぼれてますか？～淡水カジカ類から考える水系連続性の再生～
- ・ 河川環境目標と多自然川づくりをつなぎ直す

一場の見抜き方と生態学的知見の受け渡し—

また，研究発表終了後の 18：00 から本郷キャンパス 本郷第二食堂で懇親会が実施されます。昨年に続き全国の地域研究会が特産品を持参くださる予定です。どうかご賞味ください。

【キャリアパス企画・ランチタイム座談会】

大会展示企業や協賛団体（企業・官公庁・財団・研究機関など）と、関心を持った会員が交流できるキャリアパス企画を開催いたします。

日 時；9 月 25 日（金）昼休み（12～13 時頃予定）※同日夜の懇親会会場でも実施

対象者；学部生・大学院生・ポスドク・社会人 等（興味のある方はどなたでも）

（内 容）

大会展示企業や協賛団体（企業・官公庁・財団・研究機関など）から各団体 3 分の話題提供を行った後、個別ブースにおいて参加団体と関心を持った会員が交流できる座談会を実施します。研究や仕事のキャリアパス形成に関心のある方は、大会 HP から参加申し込みの登録をお願いいたします。（大会参加申込時に登録をお願いします。）

当日は昼食を持参のうえ、お食事しながらご参加ください。

また、同日夜の懇親会会場でも、会員と各団体をつなぐマッチングスペースを用意する予定です。

【企業展示】

東京大会 2026 では現在 5 団体の参加申込をいただいています。パネル等を使って各団体のいちおし技術、取り組み事例などが紹介される予定です。ぜひご覧ください。

・株式会社田中三次郎商店

展示内容：長期撮影カメラ・動画解析ツール、ドローンラジオテレメトリー

・株式会社生物技研（賛助会員）

展示内容：次世代シーケンサーを使用した受託サービスの紹介、ポスターの展示やチラシの配布。

・株式会社建設環境研究所（賛助会員）

展示内容：キャラクターデザイン、地域連携、環境予測、環境 DNA などの技術の紹介と、電子野帳等の自社で開発した現場機材の展示

・日本工営株式会社（賛助会員）

展示内容：BSC 工法、環境 DNA 分析等

・株式会社建設技術研究所（賛助会員）

展示内容：ネイチャーポジティブサービス、環境 DNA 分析技術等

【懇親会】

懇親会は、9 月 25 日（金）18：00 から本郷キャンパス 本郷第二食堂で行います。毎回好評の「全国からのお土産（お酒）」コーナーも予定しておりますので、会員同士の交流・情報交換の場として、ぜひご参加ください。

日時：9 月 25 日（金）18：00～20：00

場所：東京大学 本郷キャンパス 本郷第二食堂

参加費（うち消費税 10%含む）：

会員（正会員・賛助会員・名誉会員）・非会員：7,000 円（予定）

学生（学生会員・非会員）：3,000 円（予定）

申し込み方法：下記 URL よりお申し込みください。なお、大会開催中の追加申し込みは受けませんので、ご注意ください。

申込 URL：<https://pub.conf.it.atlas.jp/ja/event/eces2026/content/konshinkai>

【総会】

応用生態工学会第 4 回総会は、9月26日（土）の 9：30～10：30 に実施予定です。総会資料など詳細については、追ってメール・ホームページにてご案内差し上げます。

【第 3 回廣瀬賞授賞式・記念講演会】

応用生態工学会の第 3 回廣瀬賞授賞式・記念講演会が、下記のとおり東京大会 2026 の開催期間中に東京大学弥生講堂一条ホールで開催されます。どなたでも自由にご参加できますので、ご案内いたします（申込不要、無料）。

廣瀬賞について

廣瀬賞は、応用生態工学会の元会長の故廣瀬利雄氏の遺志である応用生態工学の発展を実現するため、氏の遺贈金を財源として設けられました。廣瀬賞、研究奨励賞および社会実践賞の 3 部門となっています。

2026 年 3～4 月に募集が実施され、学会賞選考委員会での審査を経て、2026 年 7 月 2 日に開催された理事会において、各賞の受賞者が決定しました。

各賞の対象は下記のとおりです。

●廣瀬賞：顕著な研究業績により応用生態工学の研究発展や教育等に指導的役割を果たし、今後の研究や学会における活躍が期待される概ね 55 歳以下の正会員で、他の正会員に推薦された者の中から、毎年 1 名に授与

●研究奨励賞：応用生態工学において今後優れた研究展開が期待できる修士取得後 10 年以内の正会員で、自薦された者の中から、毎年 3 名以内に授与

●社会実践賞：応用生態工学会での顕著な活動やその学術成果を社会事業に還元・実践している個人もしくは団体で、正会員より推薦された個人もしくは団体の中から毎年原則 2 名もしくは 2 団体に授与

第 3 回廣瀬賞授賞式・記念講演会のご案内

授賞式の日時、会場及び講演等をいただく受賞者は下記のとおりです。

日 時：2026 年 9 月 26 日（土）10:30～12:00

会 場：東京大学弥生講堂一条ホール

第 3 回受賞者：

（廣瀬賞）

●東京科学大学 環境・社会理工学院教授 吉村 千洋 氏

（研究奨励賞）

●地方独立行政法人 北海道立総合研究機構 林業試験場 森林環境部 機能グループ 研究職員 玉田 祐介 氏

（社会実践賞）

●応用生態工学会 東北地区会 「仙台海岸環境モニタリングプロジェクトの活動」

【公開シンポジウム】

メガシティ東京におけるネイチャーポジティブ・応用生態工学の最前線

■開催趣旨

世界有数のメガシティである東京は、高度な都市機能と 1300 万人の人口を有する一方で、荒川・多摩川といった自然度の高い河川環境や、河口干潟・藻場のような海域の自然環境も存在します。また、皇居や武家屋敷・社寺林に由来を持つ近代以前から続く歴史の古い森や点在する公園緑地といった、貴重な生物多様性のレガシーも有しています。現在、世界的に生物多様性の損失を食い止め、回復へと向かわせる「ネイチャーポジティブ」の実現が急務となる中、人工的な都市空間にいかにより自然の機能を保全・再生・

創出し、生態系サービスの機能を活用しつつ都市のレジリエンスを高めるかが応用生態工学の大きな研究テーマの一つです。

本シンポジウムでは、メガシティでありながら森・川・海の連続性や歴史の古い多様な自然環境も併せ持つ東京というフィールドにおいて、都市環境における生物多様性保全や自然を活用した取り組みの最前線について多角的に議論します。具体的には、荒川下流域における治水機能と湿地再生の両立という応用生態工学的な実践、まちづくりにおける都市の自然環境の活用、都市ならではの市民科学によるデータ活用と行動変容、都市住民と自然環境との触れ合いがもたらす心理的効果、東京の都市環境における豪雨対策と雨庭などグリーンインフラの役割、都市部に隣接する沿岸域でのブルーインフラやブルーカーボンの取り組みなど、都市空間における自然環境が持つハード・ソフトの両面からの機能やその効果を幅広く紹介します。

科学的知見と技術、そして市民の参画を融合させ、都市空間における自然環境をレガシーとしてどのように残しつつ活用し、ネイチャーポジティブの取り組みをどのように進めていくべきかを議論するとともに、都市機能と自然環境が融合した持続可能な次世代の都市モデルの指針について、ここ東京から発信したいと考えています。

■日時

2026 年 9 月 26 日（土）14:00~17:00

■会場

東京大学 弥生講堂一条ホール および zoom ウェビナー

（会場アクセス：<https://www.a.u-tokyo.ac.jp/yayoi/map.pdf>）

■プログラム

司会：吉田丈人（東京大学：応用生態工学会東京大会実行委員長）

開会挨拶：清水義彦（群馬大学名誉教授：応用生態工学会会長）

趣旨説明：大杉奉功（水源地環境センター：シンポジウム事務局）

講演 1：田中孝幸（国土交通省荒川下流河川事務所）

講演 2：松井宏宇（大丸有環境共生型まちづくり推進協会（エコツェリア協会）/三菱地所株式会社）

講演 3：小堀洋美（東京都市大学）

講演 4：曾我昌史（東京大学）

講演 5：小嶋芳弘（東京都）

講演 6：桑江朝比呂（港湾空港技術研究所）

パネルディスカッション（コーディネーター：吉田丈人）

■参加費

無料（どなたでもご参加いただけます。）

■参加申込み

会場参加とオンライン参加はいずれも、下記 URL よりお申し込みください。一条ホールでの会場参加は先着 250 名（超過した場合は、ビデオ中継会場にご案内します）、オンライン参加は先着 500 名で締め切ります。

会場参加の申込が事前に定員に達した場合は、会場での当日の参加申込をお断りさせて頂く場合があります。ご注意ください。https://us02web.zoom.us/webinar/register/WN_EShTpxjpQFuHiRnFZov8PQ

■CPD 申込み

建設コンサルタンツ協会 (JCCA) の CPD 登録証を発行予定です。会場参加の方は当日配布します。ご希望の方は上記のサイトで参加申込の際にチェックをお願いします。Zoom ウェビナー参加の方には視聴時間を確認の上、後日、ご登録頂いたメールアドレスに CPD 発行用の URL をご送付します。

■主催

応用生態工学会 第 29 回東京大会 実行委員会

■後援

国土交通省関東地方整備局 (予定)、環境省自然環境局 (予定)

■詳細は以下の URL よりご確認ください。

https://pub.conf.it.atlas.jp/ja/event/eces2026/content/public_symposium

【エクスカーション】

大会最終日の 9 月 27 日(日)には、エクスカーションを行います。

・ **メガシティ東京の水辺と緑：大河川の自然再生と人工環境における環境創造を体感する**

■開催趣旨

大会開催地の東京は、高度に発展した世界有数のメガシティである一方で、荒川や多摩川を代表とする大河川や丘陵、崖線など、多様な自然環境を持ち合わせています。かつては治水や都市開発の観点からコンクリートで固められてきた都市空間ですが、近年は都市緑化の推進や、市民参画による環境保全活動など、「ネイチャーポジティブ」に向けた先進的な取り組みが各所で進められています。

今回のエクスカーションは、前日の公開シンポジウムの議論を引き継ぎます。現地視察を通じて、大河川における治水と両立した自然再生の実践をはじめ、都市開発で新たに創出された自然環境が周辺の自然をつなぎ生物ネットワークの構築に貢献する役割や、水害の軽減・暑さ対策といった都市を守る役割、さらに人々が地域の自然を学びやすらぐ場を提供する役割など、都市の自然がもたらす多様な恩恵と、それらを支える市民の参画を含めた「ネイチャーポジティブなまちづくりの可能性」について理解を深めることを目的とします。

■開催概要

開催日： 2026 年 9 月 27 日 (日) 9 : 00 ~ 16 : 00 (バスにて移動します)

集合場所：川口駅西口 または 荒川下流河川事務所

視察場所：

・荒川下流域

治水機能を維持しつつ、多自然型川づくりの先駆けである「五反野ワンド」を訪ね、汽水域特有の「相対潮汐地盤高」の設計や水位・塩分動態モデル、希少種ヒメマイトトンボの適応的ハビタット創出技術を視察します。さらに、船舶の航走波から水際のエコトーン (水際移行帯) を守る消波施設の設置効果や、15 年以上にわたり「見直し (順応的管理)」を実践する「北区・子どもの水辺」、日本初の協働管理計画を有する「千住桜木地区」のアダプト活動、年間 1 万人が参画する「荒川クリーンエイド」を通じ、ネイチャーポジティブを支える市民協働の好例を学びます。

・二子玉川エリア

民間再開発によって整備された大規模な屋上緑地「二子玉川ライズ ルーフガーデン」や、隣接する世田谷区が整備した「二子玉川公園」を訪れる予定でいます。ここでは、国分寺崖線や多摩川流域の植物を取り入れて「地域の自然」を再現しており、周辺の緑と水面をつなぐ広域的な生物ネットワークの「ハブ（結節点）」としての役割を担っています。絶滅危惧種カワラノギクの生息域外保全等を通じたエコミュージアム活動を視察するほか、地下に整備された大規模な雨水貯留槽や災害用井戸による水害・防災対策、緑被率の確保によるヒートアイランド現象の緩和など、都市建築や公園における環境配慮の取り組みも併せて見学します。

・定員：30名 ※申込み先着順

・参加費：一般：6,000 円，学生(会員・非会員)：4,000 円

・現地解説（予定）：荒川下流河川事務所，小堀先生（東京都市大学），二子玉川ライズ 環境・サステナビリティ担当者，世田谷区玉川公園管理事務所，二子玉川公園ビジターセンター担当者

■申込み方法

下記 URL よりお申込みください。

https://pub.conf.it.atlas.jp/ja/event/eces2026/content/field_excursion_tokyo

4 廣瀬賞等受賞者の審査結果決定

第3回 一般社団法人応用生態工学会 廣瀬賞、研究奨励賞、社会实践賞及び廣瀬ワークショップ助成につきまして、令和8年7月2日に開催された第16回理事会において、選考委員会から推薦された以下の方々に決定されました。

【第3回 一般社団法人応用生態工学会 廣瀬賞】

受賞者 東京科学大学 環境・社会理工学院教授 吉村 千洋 氏

[選考の経緯]

第3回一般社団法人応用生態工学会廣瀬賞には、3名（日本人3名）の応募があり、選考は会長より任命された6名の選考委員会委員により行われた。

選考作業はまず、応募書類を確認し、応募者全員が受賞資格を満たすことを確認の上、各選考委員が精査し、廣瀬賞受賞にふさわしい、どちらともいえない、ふさわしくない の3段階評価を行うとともに、その理由について整理を行った。

この評価及び整理結果を参照しつつ、令和8年6月17日に5名の選考委員による審議（欠席の1名の選考委員の意見については事務局より説明）を行った。吉村氏の研究成果は、査読論文の被引用実績も高く、国際的にも高く評価されており、また、人材育成などの教育面でも貢献され、13年にわたり、学会理事や委員会委員長などを歴任し、学会に多大な貢献をした点が評価された。

他の2名の候補者についても、廣瀬賞に相応しい研究成果や社会実装等の点で評価され、好意的な意見が提出されたが、新規性や体系的研究分野の構築などについてやや物足りなさを感じるなどの意見もあり、決して受賞に反対するということではなく、もう少し努力を継続して欲しいとの意見が大勢を占めた。

審議の結果、委員総意で、廣瀬賞最終候補者として吉村氏に決定した。

[選考にあたっての付記]

3名の応募者のうち、選に漏れた2名の候補者については、新規性、応用生態工学の研究発展、国際性、業績の定量的評価、教育等への指導的役割などの向上に努力し、次年度以降の再度の応募を期待したい。

【第 3 回 一般社団法人応用生態工学会研究奨励賞】

受賞者 地方独立行政法人 北海道立総合研究機構 林業試験場 森林環境部

機能グループ 研究職員 玉田 祐介 氏

[選考の経緯]

第 3 回一般社団法人応用生態工学会研究奨励賞には、玉田祐介氏 1 名の応募があり、選考は会長より任命された 6 名の選考委員会委員により行われた。

選考作業はまず、応募書類を確認し、応募者が受賞資格を満たすことを確認の上、各選考委員が精査し、研究奨励賞受賞にふさわしい、どちらともいえない、ふさわしくない の 3 段階評価を行うとともに、その理由について整理を行った。

この評価及び整理結果を参照しつつ、令和 8 年 6 月 17 日に 5 名の選考委員による審議（欠席の 1 名の選考委員の意見については事務局より説明）を行った。玉田氏は、陸域－水域の連続性及びその攪乱要因に関する研究、樹林化と都市化における生態的機能解析などが評価され、生態学的知見を管理実務に接続するという点で精力的に活動している点も評価された。生態現象を場の動態に係づける切り口は生態系管理に不可欠であり、生息場の観点から生物へのアプローチを行い、人間生活の影響を工学的視点から評価可能としていることなど、今後の研究を期待できる点も評価された。

昨年に引き続き応募されたが、その間にも執筆論文の登載など着実な研究成果の積み上げも評価された。

このほか、玉田氏は建設コンサルタントからの転職者であり応用生態工学会の多様性を考える上で稀有な人材であること、また、建設コンサルタント勤務時代においても応用生態工学研究に関わる業績を上げており、同様の環境で精励されている研究者・技術者にとっても大いに励みになるものと期待されることなどの意見があった。

審議の結果、委員総意で研究奨励賞最終候補者として玉田氏に決定した。

【第 3 回 一般社団法人応用生態工学会社会実践賞】

受賞者 応用生態工学会 東北地区会 「仙台海岸環境モニタリングプロジェクトの活動」

[選考の経緯]

第 3 回一般社団法人応用生態工学会社会実践賞には、応用生態工学会東北地区会から応募があり、選考は会長より任命された 6 名の選考委員会委員により行われた。

選考作業はまず、応募書類を確認し、受賞資格を満たすことを確認の上、各選考委員が精査し、研究奨励賞受賞にふさわしい、どちらともいえない、ふさわしくない の 3 段階評価を行うとともに、その理由について整理を行った。

この評価及び整理結果を参照しつつ、令和 8 年 6 月 17 日に 5 名の選考委員による審議（欠席の 1 名の選考委員の意見については事務局より説明）を行った。

応用生態工学会東北地区会は、東日本大震災後に海岸堤防の法線を提内地側にセットバックした環境保全対策が行われた深沼地区は、ネイチャーポジティブの先駆事例として意義深く、生態系や生物群集に及ぼす影響を工学的・生態的視点から継続してモニタリングし、学識者やコンサルタントなど複数の多様な参加者の参画による共同研究を行い、その結果を論文、学会発表、シンポジウムで発表し共有知として社会に還元し続けた功績はまさに社会実践に貢献している。

審議の結果、委員総意で、社会実践賞最終候補者として応用生態工学会東北地区会に決定した。

【一般社団法人応用生態工学会 廣瀬ワークショップ助成】

助成決定 応用生態工学会 札幌（地域研究会）「環境目標に基づく新たな河川管理の実践に向けたワークショップ」

[選考の経緯]

第 3 回一般社団法人応用生態工学会廣瀬ワークショップ助成には、環境目標に基づく新たな河川管理の実践に向けたワークショップについて、応用生態工学会札幌（地域研究会）の渡邊恵三氏の応募があり、選考は会長より任命された 6 名の選考委員会委員により行われた。

選考作業はまず、応募書類を確認し、受賞資格を満たすことを確認の上、各選考委員が精査し、研究奨励賞受賞にふさわしい、どちらともいえない、ふさわしくない の 3 段階評価を行うとともに、その理由について整理を行った。

この評価及び整理結果を参照しつつ、令和 8 年 6 月 17 日に 5 名の選考委員による審議（欠席の 1 名の選考委員の意見については事務局より説明）を行った。

環境目標に基づく新たな河川管理の実践に向けたワークショップは、河川の定量的環境目標の設定に必要な手法を官民学で連携して取り組むもので意義深い。環境評価の達成に必要な計画・技術・管理の具体化を目指す本ワークショップは、各地河川の定量的環境目標に向けたブレイクスルーとなることが期待される。今後の活動も気候変動を踏まえ、時機を得た内容で助成に相応しい。審議の結果、委員総意で、廣瀬ワークショップ助成の最終候補者として、環境目標に基づく新たな河川管理の実践に向けたワークショップに決定した。

[選考にあたっての付記]

必要なら「小さな自然再生」を本目的に合わせて積極的にアレンジすることの検討をすべきとの意見があった。

人件費について、現地踏査では見込んでいないが、分析・解析には見込まれていることについて、取り扱いの明確化を求める意見があった。

5 理事会報告

第 15 回通常理事会及び第 16 回通常理事会における決議事項、報告事項等について、下記の通り報告します。

第 15 回通常理事会

- 1 開催日時 令和 8 年 6 月 25（木）11 時から 11 時 52 分
- 2 開催場所 東京千代田区麹町 4-7-5 麹町ロイヤルビル 405 号
一般社団法人応用生態工学会事務局
- 3 出席者 理事総数 25 名（定足数 13 名）
<対面参加 5 名>
清水義彦代表理事会長、沖津二郎理事副会長、五十嵐美穂理事、高村裕平理事、
光成政和専務理事
<web 参加 12 名>
石田裕子理事、小俣篤理事、久加朋子理事、佐藤高広理事、島村彰理事、
高橋陽一理事、田中規夫理事、千葉武生理事、樋村正雄理事、三宅洋理事、
吉田丈人理事、吉村千洋理事

監事総数 2 名

<web 参加 2 名>

鳥居敏男監事、柳川晃監事

4 その他出席者 齊藤泉事務局長

5 議事録作成者 光成政和専務理事

6 議事

審議事項

第 1 号議案 令和 8 年度予算（案）及び事業計画（案）に関する件

第 2 号議案 新規入会希望者（未承認入会者）に関する件

7 議事

審議事項

第 1 号議案 令和 8 年度予算（案）及び事業計画（案）に関する件

収入約 1,810 万円に対し支出約 2,290 万円で予算の段階で収支は約 480 万円の赤字となっているが、廣瀬賞等の支出約 170 万円が遺贈金により支弁されたあとの実質的な赤字額が約 310 万円となる令和 8 年度予算（案）については、全員一致で承認された。

恒常的な赤字体質を改善し財政の健全化を図るため、事務局から具体的検討事項として、①事務局経費節減など事務費の削減、②各種イベントの赤字解消など事業収支の改善、③優先度の低い事業の削減等によるコスト縮減の一層の努力に加え、④新たな会員増・会員維持の努力、⑤会費の値上げ、賛助会員の口数の増等の会費収入増が必要である旨説明し、財政の健全化について、今後、早急に理事会で検討することとなった。

令和 8 年度の事業計画は、以下の通りで、全員一致で承認された。

(1) 会誌の発行

29 巻 1 号 (2026 年 9 月発行予定)

29 巻 2 号 (2027 年 1 月発行予定)

(2) ニュースレターの発行

No. 113 (2026 年 9 月発行予定)：大会プログラム案内、総会開催案内、行事開催案内、理事会報告等

No. 114 (2026 年 12 月発行予定)：総会・大会報告、行事開催案内、理事会報告等

No. 115 (2027 年 2 月発行予定)：海外学会等派遣募集、廣瀬賞等募集、行事開催案内、理事会報告等

No. 116 (2027 年 5 月発行予定)：第 30 回大会開催案内、行事開催案内、理事会報告等

(3) 全国大会の開催

第 29 回全国大会 (2026 東京大会) を 9 月 24～27 日に開催する。

(4) ワークショップ等の開催

各委員会及び地区会等の活動として、全国フィールドシンポジウムやワークショップ等を実施する。

・各地区会等行事 (調整中)

第 2 号議案 新規入会希望者（未承認入会者）に関する件

2026 年 3 月 17 日開催の第 14 回理事会以降、6 月 23 日までに新規入会希望者（正会員 27 名、学生会員 32 名、賛助会員 1 社）があり、全員一致で承認された。

第 16 回通常理事会

1 開催日時 令和 8 年 7 月 2 日 (木) 10 時から

- 2 開催場所 東京千代田区麹町 4-7-5 麹町ロイヤルビル 405 号
一般社団法人応用生態工学会事務局
- 3 出席予定者 理事総数 25 名 (定足数 13 名)
<対面参加 7 名>
清水義彦代表理事会長、沖津二郎理事副会長、五十嵐美穂理事、小俣篤理事、
高村裕平理事、内藤正彦理事、光成政和専務理事
<web 参加 14 名>
平井秀輝副会長、石田裕子理事、宇野裕美理事、佐藤高広理事、島村彰理事、
高橋陽一理事、田中規夫理事、千葉武生理事、根岸淳二郎理事、服部敦理事、
樋村正雄理事、三宅洋理事、吉田丈人理事
久加朋子理事 (10 時 40 分より)
監事総数 2 名
<対面参加 1 名>
鳥居敏男監事
<web 参加 1 名>
柳川晃監事

- 4 その他出席者 齊藤泉事務局長
- 5 議事録作成者 光成政和専務理事
- 6 議事

審議事項

第 1 号議案 令和 8 年度予算に関する財政の健全化に関する件

第 15 回理事会で承認された令和 8 年度予算案は収支で約 480 万円の赤字 (廣瀬氏遺贈金を充当した後は約 310 万円の赤字) の現状、資料 1 の財政の健全化に対する取組について説明し、主な意見として、

- ・会費の値上げについて、総会にかける必要があり、数値による現状と今後の予測に基づく整理をして、説明をすること。

- ・賛助会員の方からの意見を聞く必要があること。

上記、審議中の意見を踏まえ、事務局案を作成し、継続審議とした。

第 2 号議案 2026 年廣瀬賞、研究奨励賞、社会実践賞及び廣瀬ワークショップ助成の決定に関する件

廣瀬賞等選考委員会によって 2026 年廣瀬賞、研究奨励賞、社会実践賞及び廣瀬ワークショップ助成に関する最終候補者が選考され、最終候補者を説明し、

・廣瀬賞

東京科学大学 環境・社会理工学院教授 吉村千洋氏

・研究奨励賞

地方独立行政法人北海道立総合研究機構林業試験場研究職員 玉田祐介氏

・社会実践賞

応用生態工学会東北地区会 仙台海岸環境モニタリングプロジェクトの活動

・廣瀬ワークショップ助成

応用生態工学会札幌 環境目標に基づく新たな河川管理の実践に向けたワークショップ (助成金 495,000 円)

上記、受賞者を全員の賛同を得て、これを議決した。なお、受賞者決定について、学会ホームページへ掲載するよう指示があった。

第 3 号議案 廣瀬氏遺贈金に関する資金運用規程を定める件

これまでの審議を踏まえ、効果的な廣瀬氏基金の運用を整理した。早急なる資金運用に向けて、資金運用規程（案）について、説明し、資金運用規程を廣瀬遺贈金に限定するよう表題等を修正し、第 7 条の資金運用計画について、理事会承認を報告に修正することで、全員の賛同を得て、これを議決した。なお、次回理事会にて、資金運用計画を報告するよう指示があった。

第 4 号議案 中部地区会、富山地区会に関する件

富山地区会の仮委員、中部地区会の地区委員並びに内規、また今回の事案について、地区会規程と細則の改定について、説明し、全員の賛同を得て、これを議決した。

第 6 号議案 入会希望者（未承認入会者）に関する件

新たな入会希望があり、全員の賛同を得て、これを議決した。

報告事項

第 1 2026 年海外学会等への派遣員の審査結果に関する件

2026 年海外学会等への派遣員の審査結果について、学術交流委員会委員長から送達されたので、理事会に選考の経緯及び結果を報告した。

第 2 キャリアパス支援委員会（仮称）の提案に関する件

キャリアパス WG の石田理事から、キャリアパス支援委員会（仮称）の提案について説明をし、事務局から、東京大会時におけるキャリアパス WG の活動について理事の直接確認を依頼し、提案を今後の検討課題とした。

その他

第 4 回総会のご案内

日時：令和 8 年 9 月 26 日（土）午前 9 時 30 分～10 時 30 分

場所：東京大学 弥生キャンパス 弥生講堂

（所在地：〒113-8657 東京都文京区弥生 1-1-1）

理事の出席依頼をした。

6 行事開催報告

中部地区会設置報告

総会実施日時：R 8 年 6 月 25 日 16 時～16 時 30 分

参加者：地区会メンバー 27 名（WEB 参加者：17 名）

※地区会員 27 名中 17 名出席で総会成立

・決議

中部地区会内規の承認：賛成 17 名、反対 0 名

中部地区会地区委員の選出：賛成 17 名、反対 0 名

7 月 2 日第 16 回理事会にて承認。

7 2025 年度行事経過

2025 年度（令和 7 年度）行事

7 月 1 日	2025 年度(令和 7 年度)開始
7 月	第 2 回役員候補者選考委員会（7 月 4 日開催） 第 1 期第 8 回書面理事会（7 月 24 日廣瀬賞承認決議） 第 3 回役員候補者選考委員会（7 月 25 日開催）
8 月	ニュースレター109 号（8 月 8 日発行） 第 9 回理事会（8 月 27 日開催）
9 月	第 10 回理事会（9 月 13 日開催） 応用生態工学会第 28 回全国大会（新潟大会） 9 月 11 日（木）：研究発表（ポスター発表）、自由集会 9 月 12 日（金）：研究発表（口頭発表）、自由集会、懇親会 9 月 13 日（土）：総会、表彰、廣瀬賞発表・記念講演会、 公開シンポジウム 9 月 14 日（日）：エクスカージョン 第 3 回総会（9 月 13 日開催） 第 11 回理事会（9 月 13 日開催）
10 月	
11 月	
12 月	第 2 回総務委員会（12 月 2 日開催） ニュースレター110 号（12 月 9 日発刊） 第 12 回理事会（12 月 9 日開催）
1 月	
2 月	第 3 回総務委員会（2 月 19 日開催） 2026 年度海外学会等への派遣員の募集（2 月 25 日～3 月 31 日） 第 13 回理事会（2 月 26 日開催） ニュースレター111 号（2 月 26 日発刊） 応用生態工学 Vol28No1（2 月 17 日発行）
3 月	廣瀬賞等の募集（3 月 1 日～4 月 23 日） 第 14 回理事会（3 月 17 日開催） 応用生態工学会国際シンポジウム 日本の河川における河道拡幅の 適用とレジリエントな生態系保全（3 月 30 日開催） 応用生態工学 Vol28No2（3 月 30 日発行）
4 月	
5 月	
6 月	ニュースレター112 号（6 月 10 日発刊） 廣瀬賞等選考委員会（6 月 17 日開催）

第 4 回総務委員会 (6 月 23 日開催)
第 15 回理事会 (6 月 25 日開催)

8 2026 年度行事経過と今後の予定

2026 年度 (令和 8 年度) 行事の予定

7 月 1 日	2026 年度(令和 8 年度)開始
7 月	第 16 回理事会 (7 月 2 日開催)
8 月	監事監査 (8 月 6 日開催) ニュースレター113 号 (8 月 20 日発行) 第 17 回理事会 (8 月 24 日開催予定)
9 月	応用生態工学会第 29 回全国大会 (東京大会) (予定) 9 月 24 日 (木) : 研究発表 (ポスター発表)、自由集会 9 月 25 日 (金) : 研究発表 (ポスター発表、口頭発表)、 自由集会、キャリアパス企画、懇親会 9 月 26 日 (土) : 総会、表彰、廣瀬賞発表・記念講演会、 公開シンポジウム 9 月 27 日 (日) : エクスカーション 第 4 回総会 (9 月 26 日開催予定) 第 18 回理事会 (9 月 26 日開催予定)
10 月	
11 月	
12 月	ニュースレター114 号発行予定
1 月	
2 月	2027 年度海外学会等への派遣員の募集予定 ニュースレター115 号発行予定
3 月	廣瀬賞等の募集予定
4 月	
5 月	ニュースレター116 号発行予定
6 月	廣瀬賞等選考委員会開催予定

9 事務局より

会員管理サービスシステム活用をお願い (会員情報変更、総会資料の受け取り方指定)

1. 会員情報の変更登録は、学会ホームページトップ画面右上の「入退会・登録変更・購読」バナーから入り、「マイページ」にログインし、「マイページ」の下の方にある、「会員情報を変更する」をクリックして、変更登録を行ってください。
2. 会員情報変更のご連絡は、学会事務局 eces-manager@ecesj.com にメールをいただくことも可能です。

会誌(希望者のみ)のお届け、ニュースレター、その他の連絡では、かなりの「不達が発生」しています。

連絡先等の変更連絡をよろしくお願いいたします。

3. 「マイページ」にある、「会員情報を変更する」のページの最下段に、「総会招集の通知および総会関係書類の電磁的方法による送付」の選択項目があります。電磁的方法（インターネット）による総会開催通知等の受取りの許諾をお願いします。

（説明）郵送の代わりに電磁的方法（インターネット）により総会開催通知等をお送りするためには、法の定めるところにより、正会員お一人お一人から、個別に承諾を頂く必要があります。

当学会の事務局は2名体制で何とか業務を遂行しております。お送りする資料は書面も電子ファイルも同内容です。皆様の1分のお手間で、事務局の業務が大きく軽減されます。

もちろん書面の送付が必要という方には、郵送いたしますが、電子ファイルでの受け取りを承諾いただける方におかれましては、許諾いただけますと幸甚です。

皆様のご協力が、事務局業務の大きな助けになります。どうかご協力ください。

退会の申し出は「退会フォーム」にてお願いします

退会の申し出については、事務局の見落とし等をさけるため、①「学会ホームページ退会フォーム」または ②「事務局あてに退会の連絡メール」により連絡をお願いいたします。

会員数の比較

令和8年8月20日現在の会員数と前年との比較

	R8年8月20日	R7年8月20日	増減
正会員	810	790	20
学生会員	106	151	-45
賛助会員	47	44	3